

動物用医薬品

指定

2017年2月改訂（第2版）

貯法 遮光、室温保存、密封容器

承認指令書番号	27 動薬第 1766 号
販売開始	2003年2月

チアンフェニコール系合成抗菌剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品 使用基準

ネオマイゾン® 注射液

VETERINARY®
Neomyson Inj.

【本質の説明又は製造方法】

本剤の主成分であるチアンフェニコールは、全合成でつくられた化学療法剤であり、呼吸器病の原因菌をはじめ、種々の有害細菌に広い抗菌力を示し、吸収が早く、体内で不活化されにくく、かつ活性型として速やかに病巣へ移行する。

【成分及び分量】

本品 1 mL中

有効成分	含量
チアンフェニコール	250mg

【効能又は効果】

有効菌種

本剤感性の次の菌種：

パスツレラ・マルトシダ、パスツレラ・ヘモリチカ、アクチノバチルス・プルロニューモニエ、マイコプラズマ・ボビス、ウレアプラズマ・ディパーサム

適応症

牛：細菌性肺炎
豚：豚胸膜肺炎

【用法及び用量】

1日1回体重1kg当たりチアンフェニコールとして下記の量を筋肉内に3日間注射する。

牛（搾乳牛を除く。）：

10～30mg（注射量は0.04～0.12mL）

豚（4か月齢を超える豚を除く。）：

10～30mg（注射量は0.04～0.12mL）

* 本剤を注射する場合は次表を参考にしてください。
投与量換算表（牛）

	月齢 (月)	体重 (kg)	ネオマイゾン注射液 1頭1日量(mL)
牛	生時	40	1.6～4.8
	1	60	2.4～7.2
	2	80	3.2～9.6
	3	100	4.0～12.0
	4	120	4.8～14.4
	5	150	6.0～18.0
	7～8	200	8.0～24.0
	9～10	250	10.0～30.0
	12～13	300	12.0～36.0
	17～19	400	16.0～48.0

投与量換算表（豚）

	日齢 (日)	体重 (kg)	ネオマイゾン注射液 1頭1日量(mL)
豚	生時	1	0.04～0.12
	7	2	0.08～0.24
	14	4	0.16～0.48
	21	6	0.24～0.72
	30	8	0.32～0.96
	45	14	0.56～1.68
	60	22	0.88～2.64
	75	31	1.24～3.72
	90	41	1.64～4.92
	120	65	2.60～7.80

【使用上の注意】

（基本的事項）

1. 守らなければならないこと

（一般的注意）

- ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は、効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。なお、用法・用量に定められた期間以内の投与であつてもそれを反復する投与は避けること。
- ・本剤の使用に当たっては、治療上必要な最小限の期間の投与に止めること。
- ・本剤は一回の投与量が多い場合又は連続投与する場合は、注射部位を変えること。
- ・本剤は「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注 意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物（牛、豚）について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

牛（搾乳牛を除く。）：

食用に供するために殺する前 21 日間

豚（生後 4 月を超えるものを除く。）：

食用に供するために殺する前 10 日間

（取り扱い及び廃棄のための注意）

- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く。）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。

- ・本剤は引火性の溶剤を使用しているため、保存及び使用に際しては火気に注意すること。
- ・本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。
- ・誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。

(牛及び豚に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

副作用

- ・筋肉内注射部位にときに腫脹、硬結、疼痛等が起こることがある。

【薬理学的情報等】

(薬物動態)

- ・牛に本剤をチアンフェニコールとして30mg/kg単回筋肉内注射した場合、チアンフェニコールの最大血中濃度到達時間(t_{max})は1～4時間、最大血中濃度(C_{max})は14.6 μ g/mL、血中濃度-時間曲線下面積(AUC_{24})は109.0 μ g·hr/mLであった。
- ・豚に本剤をチアンフェニコールとして30mg/kg単回筋肉内注射した場合、チアンフェニコールの最大血中濃度到達時間(t_{max})は20～45分間、最大血中濃度(C_{max})は18.5 μ g/mL、血中濃度-時間曲線下面積(AUC_{24})は62.8 μ g·hr/mLであった。

(薬効薬理)

- ・チアンフェニコールは、細菌の70Sリボソームの50Sサブユニットに結合し、ペプチド転移酵素を阻害することによってタンパク質合成を阻害することで静菌的に作用する。

【包装】

20mL × 10 バイアル

100mL × 1 バイアル

【製品情報お問い合わせ先】

Meiji Seika ファルマ株式会社

生物産業事業本部 動薬飼料部

〒104-8002 東京都中央区京橋二丁目4番16号

<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

販売元



Meiji Seika ファルマ株式会社

東京都中央区京橋2-4-16

製造販売業者



共立製薬株式会社

東京都千代田区九段南1-5-10

®登録商標

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。

NMA02-AS1702
B-EVMSJ